記 者 発 表 資 料

平成２６年　３月　５日
東 北 地 方 整 備 局

国管理ダムにおける洪水調節や環境影響等の評価を審議
～　より効率的で適切なダム管理を目指します　～

国土交通省東北地方整備局が設置する**「東北地方ダム管理フォローアップ委員会（委員長・野池　達也　日本大学大学院教授）」は３月７日**、仙台市内で委員会を**開催**します。

同委員会は、**管理中の直轄ダム**において、**洪水調節や環境影響などに関して学識経験者から意見を聴き**、必要に応じて改善措置を講じて、**効率的で適切なダム管理につなげる**ことを目的に設置されているもので、**５年に１回のサイクルで各ダムの洪水調節効果や環境への影響調査・分析結果について、審議**いただいております。

今回の委員会では、東北地方で国が管理している全16ダムのうち、**御所ダム（岩手県）、釜房ダム（宮城県）を対象に審議**をいただきます。

また、４月から管理移行が予定されている**胆沢ダム**について、フォローアップ調査の一環として環境調査等の結果について審議している**モニタリング委員会からの報告**が行われます。

【開催概要】

１．開催日時　　平成26年　３月　７日（金）13時30分から16時15分まで

２．開催場所　　アエル21階ホールＢ－１（仙台市青葉区中央1丁目3番1号）

３．議事内容　　（別紙1）

・定期報告対象ダム　　：御所ダム（岩手県）、釜房ダム（宮城県）

・ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ報告対象ﾀﾞﾑ：胆沢ダム（岩手県）

４．その他

・委員会は公開にて行います。
・傍聴を希望される場合は、当日、会場まで直接お越しください。
・カメラ撮りは冒頭のみ（議事開始前まで）といたします。

［　発表記者会　］
宮城県政記者会
東北電力記者会
東北専門記者会

問い合わせ先　　国土交通省 東北地方整備局 河川部 河川管理課
河川管理課長　　佐藤　伸吾（内線3751）
河川管理課長補佐　大入　敏夫（内線3756）
TEL 022－225－2171（代表）

（別紙1）

平成25年度
東北地方ダム管理フォローアップ委員会
次　　第

■　日時：平成26年3月7日13時30分～16時15分
■　場所：アエル　21階　ホールB－1
■　委員：別紙2

1．開会

2．あいさつ　　主催者　東北地方整備局

3．委員長あいさつ　　委員長

4．議事

（1）定期報告　①対象ダム：御所ダム・釜房ダム
②概要：定期報告は、洪水調節や利水補給実績、水質・生物調査、堆砂状況、ダム湖利用実態など、**日々実施しているダム管理**や**ダム**や**ダム周辺環境等の評価結果**について、**5年に1回、5ヶ年分の結果を報告・審議**するもの。

（2）モニタリング報告　①対象ダム：胆沢ダム
②概要：モニタリング報告は、今後管理に移行する予定のダム及び管理移行後概ね3年以内の管理ダムにおける「**環境への影響（水質、猛禽類など）**」等について、モニタリング委員会の内容について報告するもの。

（3）審議

5．閉会

（別紙2）

東北地方ダム管理フォローアップ委員会名簿

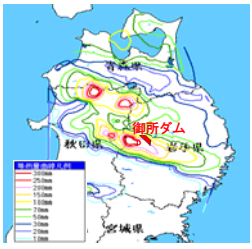
役　職	氏　名
日本大学大学院　教授	野池 達也（委員長）
日本大学　名誉教授	中村 玄正
仙台市科学館	髙取 知男
秋田大学　名誉教授	小笠原 暠
八戸工業大学　教授	佐々木 幹夫
東京工業大学　教授	石川 忠晴
岩手大学　名誉教授	菅原 亀悦
東北大学　教授	佐藤 嘉倫
岩手大学　教授	堺　茂樹
福島大学　名誉教授	鈴木 浩

（順不同・敬称略）

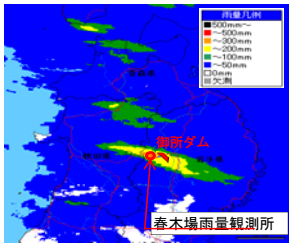
御所ダムで既往第１位の洪水を記録

平成25年8月9日（低気圧）

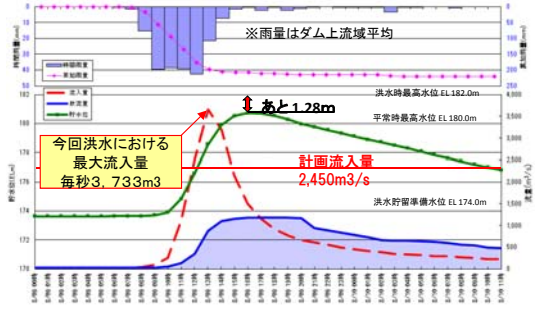
○８月９日は、東北地方に暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となり、気象台は、雫石町付近で11：30までの１時間に約100ミリの猛烈な雨となったことから「岩手県記録的短時間大雨情報」を発表し、最大限の警戒を呼びかけました。
○今回の洪水で**既往第1位**の**最大流入量3，733m3／秒**を記録しました。（過去最大のH19.9.17洪水2，197m3／秒をはるかに上回る）**※約1．7倍**
○さらに、ダム計画の基準となった**計画流入量（2，450m3/秒）をも上回りました。 ※約1．5倍**
○御所ダムの最高水位は180．72mまで上昇し、**洪水時最高水位182．00mまで、あと1．28m**にせまりました。（御所ダムで**約7m水位上昇**）
○**春木場雨量観測所**では、**観測史上第1位**の**101mm／時間**を記録しました。
○御所ダムの**流域平均累加雨量は220mm**で、降り始めから12時間の雨量としては、**観測史上第1位**を記録しました。

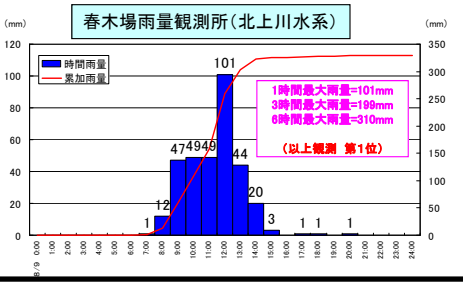


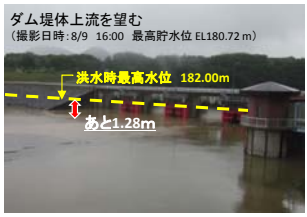
等雨量線図（8日19時～9日19時）



累加レーダ雨量（9日6時～15時）







御所ダムの状況



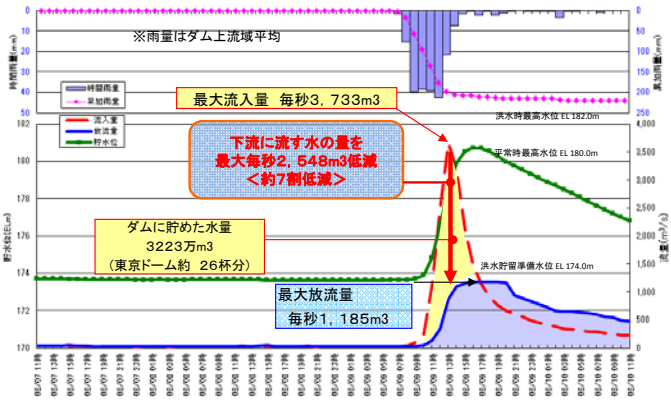
雫石川の合流部付近の状況

北上川水系 御所ダムと四十四田ダムの連携効果

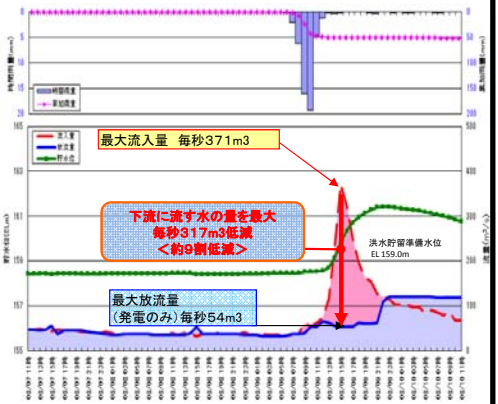
平成25年8月9日（低気圧）

○盛岡市街地のはん濫を未然に防ぐため、**四十四田ダムと連携した操作**を行い、下流河川において**はん濫危険水位程度に抑えました。**
○御所ダムでは**最大2，548 m3／秒**を、四十四田ダムでは**ゲート放流を全量カットし、下流水位の低減**を図りました。**【約3223万m3（東京ドーム約 26 杯分、岩手県庁約 380 杯分）の水をダム湖に貯めました】**
○盛岡市の雫石川合流点付近では、避難判断水位以下の水位でしたが、ダムが無ければ**約4．0m水位が上昇**し、**盛岡市街地の各地点ではん濫する危険性**があったと推測され、河川堤防とダムの整備により、今回の洪水被害を防ぐことができました。
（浸水のおそれがあったエリアでは、12,000戸、5,500億円の被害と想定されます ）

〔御所ダム〕ハイドログラフ



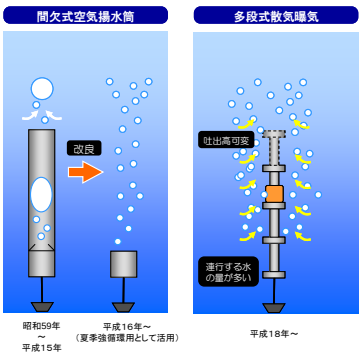
〔四十四田ダム〕ハイドログラフ

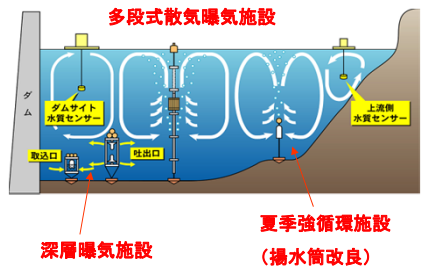


5．3　釜房ダムにおける水質保全対策の経緯

§ 釜房ダムの貯水池水質保全対策の概要

- 釜房ダム貯水池は、湛水直後の昭和46年からカビ臭のような臭気が発生。
- このため、昭和59年から水質保全パイロット事業（間欠式空気用水筒設置）を実施し、一旦改善。その後平成8年に再発し、これを受け平成16年に散気式曝気（ばっき）システムを採用。
- 成層期（４月～10月）に曝気により湖内の水を循環させ、水温上昇、成層強化を低減することで、カビ臭等の障害を引き起こす原因藻類の増殖を抑制している



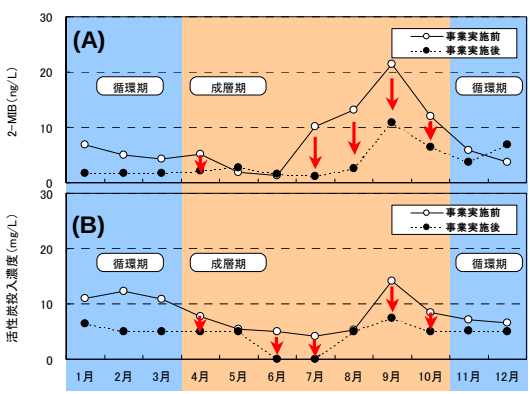


釜房ダム貯水池水質保全対策の概念図

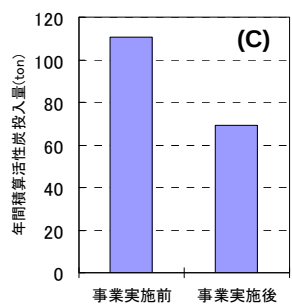
5．4　釜房ダム水質保全対策の効果

§ 釜房ダムの貯水池水質保全対策の効果

- 散気式曝気システムにより、原因藻類の増殖を抑制することによって、カビ臭物質（2-MIB）の発生が抑制され、仙台水道局における活性炭投入濃度が低下した 。
- 主に成層期の活性炭投入濃度が減少した結果、使用する活性炭量がおよそ40%削減された。



注）事業実施前：H8年のカビ臭再発後～
散気式曝気システム採用前
事業実施後：散気式曝気システム採用以降



事業実施前後の2-MIB濃度(A)、仙台市水道局の活性炭投入量(B)、及び年間積算活性炭投入量（C)の比較